

先月の終業式で、小説家片岡義男の言葉を紹介しました。それはこういうものでした。

「1日の長さというものは、特別に変わった考え方をしないかぎり、誰にとってもおなじだ。時計できざめば24時間である1日は、誰にとっても等しい時間的長さを持っている。しかし、この誰にとってもおなじ長さの1日をどんなふうにするかは人によって千差万別であり、どう使うかによってその1日が持ちうる内容もまた、まるっきりちがってくる。1日は1年であり、1年は10年であり、10年はやがて一生なのだ。」

この言葉を紹介したうえで、私は皆さんにこう投げかけました。

皆さんにとって「人生をどう充実させていくか」ということは永遠の課題でしょうが、「人生を」ではなく、「これからの一年を」どう生きていくかということならば、ましてや「今日という一日をどういう一日にしていくか」をコントロールすることならば、具体的に考えて実践していくことができるのではないのでしょうか。と。

春休みの2週間で、皆さんはどう過ごしましたか。本をたくさん読んでみたり、旅に出てみたり、普段できないことを試してみましたか。新しい学年を迎えて、顔つきが変わったでしょうか。一人一人の顔を覗き込んで確かめてみたいところですが、ちょっと難しそうなので、それは皆さん同士に任せます。

「春は出逢いと別れの季節」とはよく言われることですが、皆さんもまさに先月、頼もしかった先輩方と卒業式で別れ、今日の午後入学してくるピッカピカの1年生と、来週には出逢うことになります。

先生方ともそうです。先ほど紹介したように、事務室や部活動の先生方を含め、22人の先生方と別れ、22人の先生方と出逢います。

同級生も、ここではまだ前年度のクラスごとに並んでいますが、それももうすぐ終わりです。この1年間、あるいは2年間、同じクラスで喜怒哀楽を分かち合ったクラスメートと離れ、新しいクラスメートと出逢うことになります。

今日、皆さんはまさに「始まりの春」を迎えました。心機一転のチャンスです。この日のために、3学期の終業式で最後にこう言ったのです。

「さあ、今度はどんな一年にしていこうか。」

今日は、そのための手掛かりを二つ紹介します。

一つは、「自分グローバル化」作戦です。

今さらですが、本校はグローバル化先進校としての取組を進めています。様々な機会を捉えて行う国際交流はその一つです。

今日はこの後、先月、韓国を訪問してきたインターアクトクラブの6名の生徒が報告をしてくれます。彼女たちは事前に何回かの研修を受け、また校内で毎週韓国語を学習していました。それですぐに韓国語が使えるようになるわけではありませんが、現地で韓国語に囲まれた生活を経験できたことは、大きな収穫だったのではないかと思います。

1学期末にはアメリカ留学中の清水沙奈さんが帰国します。1年間のアメリカでの生活が彼女をどれだけ成長させたか、再会するのが楽しみです。

希望参加による夏休みの海外研修は、「自分グローバル化」の大きなチャンスです。今年もオーストラリアとニュージーランドに、合わせて46人をめどに派遣します。

ニュージーランド研修は、昨年と同じクライストチャーチ近郊のカイアポイ・ハイスクールと交流しますが、オーストラリア研修は、同じクイーンズランド州のブリスベン近郊にあるヴィクトリア・ポイント・ステイト・ハイスクールと交流することにしました。

今年はどちらも同じ10日間の日程で、現地8泊のうち、7泊をホームステイします。

ニュージーランドは7月下旬から8月上旬にかけて、オーストラリアは8月中旬から下旬にかけてと、敢えて時期をずらしました。皆さんが少しでも参加しやすくするためです。

そして今年も参加者が46人までであれば、一人当たり10万円をさいたま市から補助します。

海外に出掛けるだけではなく、6月にはアメリカのオバマ・ハイスクールの先生と生徒が来日して、本校を訪問することになっています。また、韓国からも訪問団が来るかもしれません。それもまた「自分グローバル化」のチャンスです。

直接、国際交流ができなくても、外国語の能力を高めることで「自分グローバル化」を目指すこともできます。日々の英語の授業がその最大のチャンスですが、それ以外にも例えば、1・2年生全員が受験する英語能力判定テストで高得点を狙ったり、多くの希望生徒が受験する英語検定試験で、準2級や2級、さらには準1級を目指したりする方法もあります。いっそTOEIC（トイック）とかTOEFL（トーフル）にチャレンジしてみるのもいいでしょう。「この前のTOEIC、イマイチだったな・・・」これだけでなんかカッコイイ。

また例えば、今からでもインターアクトクラブに入って韓国語を学ぶとか、もちろんプライベートで国際交流に取り組むことだってできます。ちなみに私は、年に数回、一人で海外へ出掛けたり、普段通っているスポーツクラブで、来日して日本語を勉強している外国人日本語教師とフレンドリーに交流したりすることにしています。

これらの国際交流や外国語学習が苦手だったり機会がなかったりする人でも、自分の意見を表現する自己主張の精神や、新しい物事にどんどんチャレンジしていく勇気や自主・自立の気構えを養うことでも、「自分グローバル化」は進められます。

また例えば、新2年生で部活動に加入していない人、今から部活動に入部しよう。途中からじゃ入りにくいなんて、つまらないこと考えないで。スポーツクラブの入会だって文化サークルの入会だって、いつだって「途中から」だし、たいていは「一人で」なんです。1年間やらなかったことを理由に、今からの1年と数カ月をやらないと決めつけるなんて余りにももったいない。さあ、去年とは違う1年してみよう。

「さあ、今度はどんな一年にしていこうか。」を考える手掛かりの二つ目は、「生涯投票率100%」です。

ここにいる3年生のうち、夏の参議院選挙投票日に満18歳に達している人は、投票ができます。3年生の皆さんは、わが国始まって以来、初の高校生有権者なのです。このことは今後おそらく日本史の教科書や政経の教科書に載ります。そのくらい大きなことなのです。

ところが、実際の我が国の選挙に目をやると、以前お話ししたように半数が棄権していたり、選挙によっては4人に3人が棄権していたりします。

確かに自分一人が投票してもしなくても、大勢に影響は無いかも知れません。でも、何

度も言いますが、「たいしたことはできない」と「何もできない」は、全く違います。

どうせ自分一人が何かしたって、何も変わらないとあきらめてはいけません。

どうせ自分がやらなくたって、誰かがやってくれるだろうと人任せにはしてはいけません。

選挙は本来、今の自分にできる、世の中を今より少しでも良くするための大きなチャンスです。そのためのチャンスをみすみす逃してはいけません。

さらに今年は5月下旬に、数年ぶりに復活する第2回さいたま市高校生議会が開かれます。参加者の募集はこれからですが、市議会の本会議場を使って、市議会議員になったつもりで、さいたま市の未来を考えてみよう、というイベントです。皆さんが参加することを楽しみにしています。

「今度はどんな一年にしていこうか。」と考えたとき、選択肢や可能性はたくさんあります。とりあえずやってみよう。やるからには楽しんでやろう。それだけで去年と違う1年になることは請け合いです。

そして何度も言いますが、「世界を、この世の中を、もっと良くするために、今の自分に何ができるか、何をしたらよいのか」と考えて、そのために自分にできること、すべきことを、自分の頭で考えて、ハートで意識して、行動してください。

この1年も、皆さんのすべての活動に期待しています。

Pride of the West、西高の誇りを示そう。